

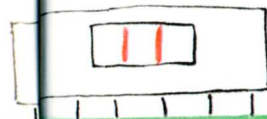
あの色／あの音／あの光



あの色
あの音
あの光

このポケット絵本は、小学生の子どもたちと美術館が3年にわたり交流する中から生まれました。彼らの実際の言葉と体験をもとに創作されています。子どもたちは美術館でさまざまな作品に会い、色、形、音、光を見つけ、時には絵の前に長く座り込み、浮かんだ言葉をつぎつぎに書きとめることもありました。最初の直感的な視点は美術館で過ごすうちに広がり深まり…、そして彼らが見つけたのは…。

学校の帰り道 ぼくらはここで池をながめていた。



この池の すぐ横の^{なてもの}建物のことを知ったのは 2年前の夏。

「池は建物の中からも見ることができるよ」と教えてくれた人がいた。

ぼくらは ずっと謎^{なぞ}だった建物に 入ってみることにした。
学校の帰りに より道をしてはダメって 言われていたけれど……。

中はうす暗く ほくらの探検する気分をもり上げた。

壁には絵 絵 絵。そして変わった彫刻。
とにかく見なれないものがいっぱい。

「ねえ これ見て」

ほくらは ひとつひとつながめては
ひそひそとおしゃべりをした。
展示室には ほくらと 絵や彫刻たちの気配だけ。
親も先生もいない じゃまされない時間。

